

吉川中学校生徒会が「森と緑の感謝祭宣言」

標語コンクール最優秀賞は弓納持樹さんの「森林は未来に残す宝物」

第5回「森と緑の感謝祭」が13日、吉川区の吉川中学校をメイン会場に行われました。主催は上越市、妙高市、上越地域振興局など7団体で構成する上越地域森と緑の感謝祭実行委員会（実行委員長は村山秀幸上越市長）です。会場には構成団体の役員、緑の少年団員、町内会長、吉川中学校の生徒など約300人が集まり、森林が果たしている役割を再確認するとともに、美しく緑豊かなふるさとを残していくことを誓い合いました。

記念式典では村山市長が挨拶した後、山崎政美上越森林管理署長が来賓を代表して祝辞を述べました。山崎さんは、森と人間の関係について語るために「おじいさんは山へ柴刈りに、おばあさんは川へ洗濯に行きました」で始まる桃太郎の昔話を持ち出し、昔は木々を燃料に使っていたことなどを紹介、「山林とのつながりを思い出してもらいたい。体験活動などで森の恵

みを得ていることを実感してほしい」と訴えました。

式典では表彰が行われました。（公社）にいがた緑の百年物語緑化推進委員会緑化功労者表彰、緑の募金表彰、標語コンクール実行委員会表彰です。このうち、緑化功労者表彰では最近、森林整備の分野で活躍著しい頸北林業研究会（江村昇会長）が表彰されました（写真上）。

また、標語コンクールでは、最優秀賞に吉川小学校の弓納持樹（ゆみなもち・たつき）さんの「森林は未来に残す宝物」が選ばれました。「森は未来に残す宝物」が選ばれました。この日の式典で、「森と緑の感謝祭宣言」を行ったのは吉川中学校生徒会の皆さんです。生徒を代表して4人が登壇、「森は、清らかな水と空気をつくり、災害を防ぎ、美しい風景と豊かな海をはぐくみ、多様な文化を生み出す源となつていきます」「私たちは、緑を守り育てる活動を続けながら、自然を大切にすることを多くの

人々に伝えていきたいと思えます」「森や花を愛する心、ふるさとを愛する心を忘れずに、美しく緑豊かなふるさとを残していくことをここに誓います」という宣言を分担して読みあげました。

記念植樹は中学校グラウンド脇の広場です。ここは平成8年の新潟県植樹祭で梅の木が植樹された場所でもあります。今回は植樹の余地のある空間を利用して20本のヤマボウシが植えられました。私は7番の木が受け持ちで、吉川中学校の野呂貴大（のろ・たかひろ）さんと一緒に植



えました（左上写真の下）。大きくなって赤い実をつけたら、食べに出かけようと思います。

市内各地でスポーツ行事

吉川区では伝統の駅伝大会

先週の日曜日、市内各地でスポーツ行事が行われました。このうち、吉川区では町時代からの通算で48回目の駅伝が行われました。

「がんば」「頼むよ」そんな声を出しながら中継所でタスキを渡す選手たち、一生懸命走り切ったあとの満足感なのでしょうか、素敵な笑顔がいくつも見られました。（写真は大乘寺）

この大会では旭ランナーズが1時間13分10秒のタイムで4連勝。総合事務所のみなさんもチームをつくって大会を盛り上げました。

9区間の駅伝大会を成功させるため、選手が交通整理員を務めるケースもありました。ランナーの田中裕紀夫さん、田中時弘さんなどがそうです。このうち田中時弘さんはアンカーとして走り、トップでテープを切りました。たいしたものですよ。



【アキギリ】シソ科の多年草。茎の先にまばらに、長さ3cmほどの紅紫色の花をつけています。黄色の花をつけるものもあるとのことですが、まだ出会ったことがありません。吉川区の山間部にて16日撮影。

J A全国大会が「脱原発」方針を確認

TPP反対の立場から、交渉参加の是非を衆院選の争点にする決議も



大豆の収穫作業。14日、吉川区下町で。

J A全中（全国農業協同組合中央会）は11日、第26回J A全国大会を東京都渋谷区のNHKホールで開き、約3000人が参加しました。大会では、農業再生と豊かな地域社会を協同の力でつくる

逆行し、市場原理主義・新自由主義を体現したものがTPPだと指摘。「わが国農業に壊滅的な打撃を与え、公的医療崩壊をはじめ、わが国のありようそのものを変えてしまうTPP交渉参加を断じて認めることはできない」と訴えました。

来賓あいさつした野田佳彦首相が登場すると、会場から「TPP反対！」の声飛びました。野田首相は「TPPと日中韓FTA、東アジア経済連携協定を同時並行して推進したい」とのべ、アメリカ基準を押し付けるTPP交渉参加を推進する立場を改めて強調しました。

前大会と同様に、11政党が招待され、挨拶

るとともに、「脱原発」と自然再生エネルギーの活用をめざす方針を確認。環太平洋連携協定（TPP）に反対する立場から、交渉参加の是非を衆院選挙の大きな争点にしていくとの特別決議を採択しました。

主催者あいさつした萬歳章（ばんざい・あきら）会長は、東日本大震災からの復旧・復興でも協同の力の大切さが再評価されているとのべ、「次代へつなぐ協同 協同組合の力で農業・地域を豊かに」との大会スローガンの内容を強調。東電福島第1原発事故を教訓に、「安全な農畜産物を将来にわたって生産し提供するうえでも、将来的な脱原発をめざす」と表明しました。同氏は、事前の記者会見で、「脱原発にむけた具体的な手順・工程の提示と国による確実な実行を求めたい」とのべています。

TPP交渉参加問題では、協同組合の考えに

日本共産党を代表して挨拶にたった志位和夫委員長は、「J Aのみなさんをはじめ、国民のたたかいが、政府の参加表明を阻んでいる。同時に、牛肉の輸入規制緩和などTPP参加を先取りする動きも生まれている。参加断念に追い込むまで、一緒にがんばりぬこう」「この大会で『持続可能な農業の実現』と『安全・安心な食料供給』という立場に



たつて『脱原発』の方針を掲げられたことを心から歓迎する。この分野でも、大きな共同がひろがることを願っている」「『土に立つ者は倒れず、土に活（い）きる者は飢えず、土を護（まも）る者は滅びず』とい

う先人の言葉があるが、まさに『農は国の基』だ。日本農業の豊かな発展のために力を合わせてがんばる」とのべると、大きな拍手がわき起こりました。（この記事はともも大事な内容なので、「しんぶん赤旗」12日付の記事を一部編集した上で転載しました）

市内各地でスポーツ行事

吉川区では伝統の駅伝大会

先週の日曜日、市内各地でスポーツ行事が行われました。このうち、吉川区では町時代から行われてきました。

「がんば」「頼むよ」そんな声を出しながら中継所でタスキを渡す選手たち、一生懸命走り切ったあとの満足感なのでしょいか、素敵な笑顔がいくつも見られました。

この大会では旭ランナーズが1時間13分10秒のタイムで4連勝。総合事務所のみなさんもチームをつくって大会を盛り上げました。



【アキギリ】シソ科の多年草。茎の先にまばらに、長さ3cmほどの紅紫色の花をつけています。黄色の花をつけるものもあるとのことですが、まだ出合ったことがありません。吉川区の山間部にて16日撮影。

春よ来い 第二十三回 もらい乳

私が生まれて間もなくの頃、母、エツの乳の出が悪くて近くの女性から「もらい乳」をしたというのを知ったのは昨年秋のことでした。その女性というのは、母の幼友達のキエさん、生まれは母の実家のすぐ隣下の「あたしや」（屋号）です。キエさんの現在の住まいは嫁ぎ先の大島区板山にあります。先日、親戚の家に行つた時、寄せてもらいました。家のすぐ下の畑で仕事をしていたキエさんに声をかけると、「さあさ、入ってくんない」と誘われました。

お連れ合いが数年前に亡くなつていたので、キエさんはいま、一人で暮らしています。農家特有の広い居間の真ん中よりも少し台所寄りにテーブルが置いてあります。「なんにも、かまわんでくんないや」と言つたのですが、キエさんは居間と台所を何回も行き来し、豆腐のオカラで作つた料理、キュウリのキムチ漬け、サヤインゲンのゆでたものなど、次々と出してきてくれました。

「おら」とあるもんは、みんな年寄りごつごつおで」と遠慮がちに勧められたのですが、見た目も、実際の味もとてもいいものでした。本人も本当は味に自信があつたのでしよう、キエさんは「これ、ばちゃんにひとつばやるわ」そう言いながら、テーブルに出したものと同じオカラ料理などをナイロン袋に四つも入れてくれました。

この日、お茶を御馳走になりながら聴いた話に私は惹きつけられました。戦争末期、東京・世田谷のS家へ女中奉公に行つたことや私の生まれた頃のことなど、初めて聴くことがいくつも出てきたからです。

キエさんが戦争末期に東京のS家に行く時、一緒について行って案内役を務めたのは私の母でした。そのことは母からある程度聞いていたのですが、奉公に行つた先は、同じS家でも弟さんの家であることをこの日まで知りませんでした。そして、S家に行く前の晩、東京大空襲で亡くなつたアヤノおばさんの家に泊まつたということも初耳でした。

私が生まれたあとの「もらい乳」のことはこの日、詳しく教えてもらいました。私是一九五〇年（昭和二五年）三月、母の実家である大島区竹平の「のうの」で生まれました。キエさんは、この前月に「あたしや」で娘さんを産んでいます。「もらい乳」した当時のことについてキエさんが語りました。

母は私を産んだ後、乳が十分出なく、私は泣いてばかり。それを聞いたキエさんか「ほーさ、つんてきやっさい」と言われ、母は「のうの」から近道を下つてキエさんのところに私を抱いて通つたのだそうです。キエさんは、「飲んでもらつたすけ、おらも助かつたがね。だつて、乳が出て震えきやくるがね、きよもんも綿入れもくさつちやつたそね……」と言つて笑いました。

「もらい乳」をした私は丸々太つた赤ちゃんになります。私が現在持っている最も若い時の写真は、ミシン用の丸い椅子に座つて、ふっくらした顔になつて写つている赤ちゃん時代のものです。この写真についてもキエさんは語ってくれました。私が生まれた一九五〇年のお盆に、千葉の叔父が「のうの」の家のそばの道端で撮つてくれたもので、椅子に背もたれがないものだから、母が後ろで支えていたといひます。まあ、よくこんな細かいことまで覚えていてくださったと思います。

「もらい乳」をしてから六二年、私はようやく乳を与えてくれた女性にお礼を言うことができました。キエさん、キュウリのキムチ漬け、うんめかつたね。

敬老会は歌あり、芝居ありで楽しさいっぱい

吉川区敬老会は11日、ゆつたりの郷体育館で行われ、75歳以上の高齢者のうち320人が参加されました。

式典では村山秀幸市長と佐藤敏副議長が味のある挨拶をされ、好評でした。このうち佐藤副議長は「越後

の三大名刹のうち残っているのは赤沢の雲門寺だけだ」などと吉川区の魅力を語りました。

第二部は(株)ゆつたりの郷が受けて、民謡あり、舞踊あり、そして歌謡曲あり、楽しい会となりました。

このうち、キングレコード専属歌手の葉月みなみさんの見事な歌いっぷりには拍手喝さいでした。

恒例となつた「ゆつたりの郷中村一座」の芝居は今回も大好評でした。今回は従業員以外からも舞踊でがんばつた老川さんなど数人が加わり、温浴施設の持ち株会社をテーマにして、ゆつたりの郷への支援を訴えました。芝居を観た人からは、「この芝居のお陰で第三セクターの持ち株会社問題がわかつた」という声が出るほどリアルで、しかも面白い内容でした。

第二部の最後は金婚夫婦へ

のプレゼントの贈呈でした。これは新企画。プレゼント贈呈の前に金婚夫婦のひと組である長峰の宮野入政雄さん夫婦にゆつたりの郷の中村支配人がインタビューしました。「どうして結婚することになったのか」との問いに、政雄さんは、「おヨネさんみたいなおせっかいな人がいて、その人の世話で一緒になつた。おれは誰でもよかつた」と答え、会場は爆笑に包まれました。また、今後どうしたいかと問われ、「一時間でいいから長生きしたい」。これにも大きな拍手でした（写真下）。



	10月10日(水)	10月17日(水)
上越南消防署	0.040	0.040
上越北消防署	0.050	0.050
新井消防署	0.060	0.053
頸北消防署	0.053	0.046
頸南消防署	0.050	0.047
東頸消防署	0.050	0.050
高士分遣所	0.053	0.053
名立分遣所	0.040	0.040

私が生まれて間もなくの頃、母、エツの乳の出が悪くて近くの女性から「もらい乳」をしたということを知ったのは昨年秋のことでした。その女性というのは、母の幼友達のキエさん、生まれは母の実家のすぐ隣下の「あたしや」（屋号）です。キエさんの現在の住まいは嫁ぎ先の大島区板山にあります。先日、親戚の家に行つた時、寄せてもらいました。家のすぐ下の畑で仕事をしていてキエさんに声をかけると、「さあさ、入ってくんない」と誘われました。

お連れ合いが数年前に亡くなっているのです、キエさんはいま、一人で暮らしています。農家特有の広い居間の真ん中よりも少し台所寄りにテーブルが置いてあります。なんにも、かまわんでくんないや」と言つたのですが、キエさんは居間と台所を何回も行き来し、豆腐のオカラで作つた料理、キュウリのキムチ漬、サヤインゲンのゆでたものなど、次々と出してきてくれました。

「おらこ」にあるもんは、みんな年寄りごつごつおで」と遠慮がちに勧められたのですが、見た目も、実際の味もとてもいいものでした。本人も本当は味に自信があつたのでしよう、キエさんは「これ、ばちゃんにひとつばやるわ」そう言いながら、テーブルに出したものと同じオカラ料理などをナイロン袋に四つも入れてくれました。

この日、お茶を御馳走になりながら聴いた話に私は惹きつけられました。戦争末期、東京・世田谷のS家へ女中奉公に行つたことや私の生まれた頃のことなど、初めて聴くことがいくつも出てきたからです。

キエさんが戦争末期に東京のS家に行く時、一緒について行って案内役を務めたのは私の母でした。そのことは母からある程度聞いていたのですが、奉公に行つた先は、同じS家でも弟さんの家であることをこの日まで知りませんでした。そして、S家に行く前の晩、東京大空襲で亡くなったアヤノおばさんの家に泊まつたということも初耳でした。

私が生まれたあとの「もらい乳」のことはこの日、詳しく教えてもらいました。私は一九五〇年（昭和二五年）三月、母の実家である大島区竹平の「のうの」で生まれました。キエさんは、この前月に「あたしや」で娘さんを産んでいます。「もらい乳」した当時のことについてキエさんが語りました。

母は私を産んだ後、乳が十分出なく、私は泣いてばかり。それを聞いたキエさんから「ほーさ、つんてきやっさい」と言われ、母は「のうの」から近道を下つてキエさんのところに私を抱いて通つたのだそうです。キエさんは、「飲んでもらつたすけ、おらも助かつたがね。だつて、乳が出て震えきやくるがね、きよもんも綿入れもくさつちやつたそね……」と言つて笑いました。

「もらい乳」をした私は丸々太つた赤ちゃんになります。私が現在持っている最も若い時の写真は、ミシン用の丸い椅子に座つて、ふっくらした顔になって写っている赤ちゃん時代のものです。この写真についてもキエさんは語ってくれました。私が生まれた一九五〇年のお盆に、千葉の叔父が「のうの」の家のそばの道端で撮つてくれたもので、椅子に背もたれがないものだから、母が後ろで支えていたといひます。まあ、よくこんな細かいことまで覚えていてくださったと思ひます。

「もらい乳」をしてから六二年、私はようやく乳を与えてくれた女性にお礼を言うことができました。キエさん、キュウリのキムチ漬、うんめかつたね。

森林は未来に残す宝物 吉川区で「森と緑の感謝祭」開催

第5回「森と緑の感謝祭」が13日、吉川区の吉川中学校をメイン会場に行われました。主催は上越市、妙高市など7団体で構成する上越地

上越地域各消防署における空間放射線量測定結果（測定は毎日午前9時。数値はマイクロシーベルト。1時間当たりの測定量です。消防署によると、通常の範囲は1時間当たり0.016~0.16μSv（マイクロシーベルト）だということです。

	10月10日(水)	10月17日(水)
上越南消防署	0.040	0.040
上越北消防署	0.050	0.050
新井消防署	0.060	0.053
頸北消防署	0.053	0.046
頸南消防署	0.050	0.047
東頸消防署	0.050	0.050
高士分遣所	0.053	0.053
名立分遣所	0.040	0.040

域森と緑の感謝祭実行委員会（実

行委員長は村山秀幸上越市長）。会場には構成団体の役員、緑の少年団員、町内会長、生徒など約300人が集まり、森林が果たしている役割を再確認するとともに、美しく緑豊かなふるさとを残していくことを誓い合いました。

記念式典では村山市長が挨拶した後、山崎政美上越森林管理署長が「体験活動などで森の恵みを得ていることを実感してほしい」と訴えました。

式典では表彰もありました。（公社）にいがた緑の百年物語緑化推進委員会緑化功労者表彰、緑の募金表彰、標語コンクール実行委員会表彰です。このうち、緑化功労者表彰では最近、森林整備の分野で活躍著しい頸北林業研究会（江村昇会長）が表彰され

ました。また、標語コンクールでは、最優秀賞に吉川小学校の弓納持樹（ゆみなもち・たつき）さんの「森林は未来に残す宝物」が選ばれました。

式典で、「森と緑の感謝祭宣言」を行ったのは吉川中学校生徒会の皆さんです。生徒を代表して4人が登壇、「森は、清らかな水と空気をつくり、災害を防ぎ、美しい風景と豊かな海をはぐくみ、多様な文化を生み出す源となっています」「私たちは、緑を守り育てる活動を続けながら、自然を大切にすることを多くの人々に伝えていきたいと思ひます」「森や花を愛する心、ふるさとを愛する心を忘れずに、美しく緑豊かなふるさとを残していくことをここに誓います」という宣言を読みあげました。



写真は13日、式典後、吉川中の野呂貴大さんとヤマボウシの木を記念植樹する私。